

【公報種別】特許法第 17 条の 2 の規定による補正の掲載
 【部門区分】第 2 部門第 4 区分
 【発行日】平成 27 年 3 月 12 日 (2015.3.12)

【公開番号】特開 2013-158913 (P2013-158913A)
 【公開日】平成 25 年 8 月 19 日 (2013.8.19)
 【年通号数】公開・登録公報 2013-044
 【出願番号】特願 2012-19611 (P2012-19611)
 【国際特許分類】

B 4 1 J 15/04 (2006.01)

B 4 1 J 11/42 (2006.01)

【F I】

B 4 1 J 15/04

B 4 1 J 11/42 M

【手続補正書】
 【提出日】平成 27 年 1 月 22 日 (2015.1.22)
 【手続補正 1】
 【補正対象書類名】明細書
 【補正対象項目名】0 0 5 1
 【補正方法】変更
 【補正の内容】
 【0 0 5 1】

可動ホルダー 1 4 4 は、上壁部上面および下壁部下面に形成され、各ガイド溝 1 5 1 に係合する上下一対のガイドリップ 1 6 3 と、テープ送り方向上流側の内側面および下流側の内側面の上下方向略中間部において前後方向に延在し、回転体スライダー 1 0 6 のスライドをガイドする一对のスライドガイド 1 6 4 と、固定ホルダー 1 4 3 のガイドブロック 1 5 3 に対向し、後述する戻しばね（図示省略）の一端が接触するばね受け部（図示省略）と、ばね受け部から駆動ローラー部 1 0 1 とは反対側（前側）に突設され、固定ホルダー 1 4 3 のガイド孔 1 5 2 に貫通するスライドロッド 1 6 6 と、スライドロッド 1 6 6 の上方においてテープ送り方向上流側の側面と下流側の側面とを接続するように形成された水平部 1 6 7 と、水平部 1 6 7 の駆動ローラー部 1 0 1 とは反対側の端部上面に突設され、フック部材 1 7 5 が係合するホルダー係合受け部 1 6 8 とを備えている。また、スライドロッド 1 6 6 の先端には、スライドロッド 1 6 6 のガイド孔 1 5 2 からの抜け止めとして機能する抜け止めピン 1 6 9 が螺合するようになっている。

【手続補正 2】
 【補正対象書類名】明細書
 【補正対象項目名】0 0 5 8
 【補正方法】変更
 【補正の内容】
 【0 0 5 8】

このように、開閉蓋 6 の開放に連動して排出従動ローラー 1 4 1 が離間位置へ移動し、排出駆動ローラー 1 1 1 と排出従動ローラー 1 4 1 との間隙が広がる。このため、テープカートリッジ C をカートリッジ装着部 1 0 にセットする際、印刷テープ T がテープ送出口 3 8 からはみ出しているような場合にも、印刷テープ T を排出駆動ローラー 1 1 1 と排出従動ローラー 1 4 1 との間に確実に入るようにしてテープカートリッジ C をセットすることができる。そして、テープカートリッジ C をカートリッジ装着部 1 0 にセットした後は、開閉蓋 6 を閉塞することによって、それに連動して排出従動ローラー 1 4 1 がニップ位置に移動するため、排出駆動ローラー 1 1 1 および排出従動ローラー 1 4 1 により印刷テープ T を回転送り可能な状態とすることができる。

なお、後述する回転部材 192 についても、排出従動ローラー 141 と共に可動ホルダー 144 に支持されているため、離接機構 108 により、開閉蓋 6 の開閉に連動して往復移動するようになっている。

【手続補正 3】

【補正対象書類名】明細書

【補正対象項目名】0065

【補正方法】変更

【補正の内容】

【0065】

回転部材 192 は、係合アーム 195 が回転体スライダー 106 の係合孔 185 に係合していることで、回転体スライダー 106 の前進位置と後退位置との間のスライドに連動して回転する。回転部材 192 の係合アーム 195 および検出アーム 196 は、回転体スライダー 106 の前進位置と後退位置との間のスライドに連動して軸部 194 (回転部材支軸 191) を中心に往復回転するようになっている。すなわち、軸部 194 は、係合アーム 195 の前後方向の回転を検出アーム 196 の左右方向の回転に変換するが、検出アーム 196 が係合アーム 195 よりも長い分、係合アーム 195 の回転の振り幅に対し検出アーム 196 の回転の振り幅は数倍となる。なお、以下では、回転体スライダー 106 が前進位置から後退位置へスライドする場合の係合アーム 195 および検出アーム 196 の回転方向を後退回転方向といい、回転体スライダー 106 が後退位置から前進位置へスライドする場合の係合アーム 195 および検出アーム 196 の回転方向を前進回転方向という。

【手続補正 4】

【補正対象書類名】明細書

【補正対象項目名】0081

【補正方法】変更

【補正の内容】

【0081】

図 14 を参照して、他の実施形態に係る駆動側回転体 254 および従動側回転体 255 について説明する。駆動側回転体 254 は、駆動側小径部 261 と、駆動側小径部 261 の両端面に駆動側小径部 261 と同軸上に設けられた駆動側第 1 大径部 262 および駆動側第 2 大径部 263 とから一体形成され、全体として、外周面が軸方向において凹凸となる駆動側凹凸部 (図示省略) を有するローラー状に形成されている。駆動側第 1 大径部 262 および駆動側第 2 大径部 263 は、排出駆動ローラー 111 の駆動側上ローラー本体 122 および駆動側下ローラー本体 123 と略同径に形成されており、駆動ローラー軸 121 に軸着された状態では、駆動側上ローラー本体 122 および駆動側下ローラー本体 123 に対して径方向にはみだしてはいない。

【手続補正 5】

【補正対象書類名】明細書

【補正対象項目名】0082

【補正方法】変更

【補正の内容】

【0082】

従動側回転体 255 は、従動側大径部 266 と、従動側大径部 266 の両端面に従動側大径部 266 と同軸上に設けられた従動側第 1 小径部 267 および従動側第 2 小径部 268 とから一体形成され、全体として、外周面が軸方向において凹凸となり且つ駆動側凹凸部と相補的な形状である従動側凹凸部 (図示省略) を有するローラー状に形成されている。従動側大径部 266 は、排出従動ローラー 141 の従動側上ローラー本体 172 および従動側下ローラー本体 173 と略同径に形成されており、回転体スライダー 106 が後退位置に移動した状態では、従動側上ローラー本体 172 および従動側下ローラー本体 173 に対して径方向にはみだしてはいない。

なお、図示省略したが、先の実施形態と同様に、駆動側回転体 2 5 4 には駆動側回転体孔部が形成され、従動側回転体 2 5 5 には従動側回転体孔部が形成されている。